

宮前ガバナンス9月号

連載寄稿

「認知症高齢者の徘徊をどう守るか？」

川崎市議会議員 石田やすひろ

高齢者増加に比例して、富山県富山市だ。同市を参
 認知症高齢者の徘徊者数も、富山市には、「富山市認知
 増える傾向にある。徘徊を、症高齢者徘徊SOS緊急タ
 する高齢者を早期発見し、イヤル」がある。徘徊者が
 家族のもとに戻す為には社、発生したのち、協力団体へ
 会の見守りが必要だ。このの伝達方法に、メールが活
 徘徊者の早期発見に地域を、用されている。家族からの
 ネットワーク化して対応し、SOS緊急ダイヤルを受け
 ようとする自治体がある。



川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学大学院
 (公共政策修士)修了、国会議員の秘書を経て
 1999年28歳初当選。現在3期目。子育て支援
 策の強化や区役所機能の強化を推進する。そ
 の他、政策を議会で提案し多数実現をしてい
 る。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成し
 その内容について積極的に市政報告を実施。

その他 ブログ等は

市議会議員 石田やすひろ

検索

と、登録した協力団体に
 徘徊者の顔写真が入った情
 報メールをエリア限定(第
 一配信エリア)で配信。発
 見までに1時間以上経過し
 た場合、第二配信エリア(市
 内全域)に配信する。
 事業の特徴は協力団体に
 民間(銀行、タクシー、農協
 ・美容、マスコミなど)の、
 地域に根ざした事業者が多
 く含まれている点にある。
 その結果、通報から保護ま
 でが2時間未満という割合
 が65・4%と、早期発見に
 効果を発揮している。
 健康福祉委員会の視察で
 富山市に出向き担当者から、
 事業内容を直接聞いた。
 行政の役割として必要だと
 感じたのは、安全・安心の
 ための「見守りネットワー
 クづくり」にあること。当然
 公助には限界がある。そこ
 で行政に求められる役割と
 いうのは、点と点を結ぶネ
 ットワークづくりにある。
 認知症高齢者を徘徊から守
 るのは、その絆を生かした
 地域の「見守り力」。川崎
 市でも、富山市の事例を参考
 にするべきであると考え、
 早速、川崎市と意見交換を
 予定している。

今月の1枚



富山では日本初の行政主導のレンタルサイクルが展開。